

## 平成28年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

平成29年11月16日

代表者 亀崎 美沙子

研究課題名	「子どもの最善の利益」をめぐる保育相談支援の葛藤とその構造
研究期間	平成28年6月1日～平成29年2月28日
共同研究者	なし
1. 今年度の研究概要	
<p>本研究の目的は、保育と保護者支援という二重の役割を担う保育士が、保護者支援において感じる葛藤の実態と構造を明らかにすることである。</p> <p>4つの保育所を対象として、葛藤事例に関する60分～90分程度の半構造化インタビュー調査を実施した。調査対象者は、5年以上の保育所勤務経験を有する保育士である。収集した音声データは、SCATを用いて質的分析を行った。保育士の葛藤は、先行研究がなく、各園の個性（保育内容、保育方針、職員の関係性、保護者対応のルール等）と密接にかかわっていると考えられた。そのため、文脈を切り離して横断的に分析するよりも、まずは1ケースごとに丁寧にその要因を検討し、実態を丁寧に捉える必要があると考え、個別ケースごとに分析を行った。</p> <p>葛藤事例の分析の結果、以下の4点が明らかとなった。</p> <p>第1に、保護者の姿が「子どもの利益」に反する場合に葛藤が生じることである。第2に、「子どもの最善の利益」が、それを判断する者の立場や子どもの状況に依存しており、こうした不確実性が保育士の判断を困難なものとしていることである。第3に、葛藤には職業倫理の衝突によるもの、個人の規範意識と職業倫理の衝突によるものなど、複数のタイプがあることである。第4に、葛藤が生じない場合もあり、そこには保護者支援の役割意識が低いために生じないタイプ、職業倫理の内面化によって葛藤を解消しているタイプがあることである。</p> <p>これらの研究結果からは、葛藤解決のためには、保育士の葛藤パターンの実態把握と、葛藤解決の具体的方法の検討が必要であると考えられた。</p>	
2. 研究の成果	
<p><b>1. 研究成果として得られた知見</b></p> <p>保護者支援の葛藤については先行研究がないために、本研究では探索的に葛藤の実態と構造を検討した結果、以下のような成果を得た。</p> <p>1) 葛藤には複数のタイプがあること</p> <p>2) 葛藤には保育士の規範意識と職業倫理がかかわっていること</p> <p>これらの知見から、葛藤の解決のためには、葛藤の背後にある保育士の意識構造の把握・分析が必要であることが今後の課題として示された。</p> <p><b>2. 研究の成果物</b></p> <p>本研究の成果を、1) 日本保育者養成教育学会（2017年3月）、2) 日本保育学会（2017年5月）、3) 日本子ども家庭福祉学会（2017年6月）において発表した。また、論文を執筆し、1) 『十文字学園女子大学紀要』第47集（2017年3月）、2) 『保育学研究』第55巻第1号（2017年8月）に掲載された。</p> <p>これらの研究では、①葛藤の背景には子どもの最善の利益に関する判断の難しさがあること、②葛藤を解消している保育士は長期的視点や一貫した受容姿勢を有していること、③葛藤の解決には保育士が共有できる倫理原則や行動指針が必要であること等を考察した。</p>	

### 3. 課題および今後の計画

本研究成果からは、保育士の葛藤には、保育士の職務構造の問題と、保育士自身の持つ価値観がかかわっていることが考察された。そこで、葛藤解決に向けたさらなる検討のためには、職務の構造的側面、保育士の内面的側面の両方からアプローチを行うことが今後の課題とされた。

今後は、保育士の内面的側面として、規範意識と職業倫理という視点から、葛藤タイプを明らかにすることを計画している。

### 3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

#### 1. 学会発表（単著）

(1) 日本保育者養成教育学会第1回研究大会

・テーマ：「保育相談支援における保育士のジレンマ（4）—子どもの発達保障と保護者意向の尊重をめぐる—」

・発表時期等：2017年3月5日（於：白百合女子大学）

・発表形式：ポスター発表

(2) 日本保育学会第70回大会

・テーマ：「保育相談支援における保育士のジレンマ（5）—長期的視点にもとづく子どもの生活保障に着目して—」

・発表時期等：2017年5月20日（於：川崎医療福祉大学）

・発表形式：ポスター発表

(3) 第18回日本子ども家庭福祉学会全国大会

・テーマ：「保護者支援における保育士の葛藤とその対応（1）—葛藤を解消させた保育士の支援特性に関する検討—」

・発表時期等：2017年6月4日（於：関西福祉科学大学）

・発表形式：口頭発表

#### 2. 学術論文（単著）

(1) 『十文字学園女子大学紀要』第47集、2017年3月

「保育相談支援における保育士の葛藤—『気になる子ども』の保護者との関係変容に伴う支援の質的転換に着目して—」

(2) 日本保育学会『保育学研究』第55巻第1号、2017年5月

「保育士の役割の二重性に伴う保育相談支援の葛藤—親・子の相反ニーズにおける子どもの最善の利益をめぐる—」

## 平成 28 年度(2016 年) 研究概要

研究所・部門	
研究課題名	「子どもの最善の利益」をめぐる保育相談支援の葛藤とその構造
研究代表者	亀崎 美沙子
研究期間	平成 28 年 6 月 1 日 ~ 平成 29 年 2 月 28 日
共同研究者	

## 1. 研究成果取組状況

## (1) 国内外の学会発表

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	招待講演
発表済	1) 日本保育者養成教育学会第 1 回研究大会 (白百合女子大学)、2017 年 3 月 5 日 亀崎美沙子「保育相談支援における保育士のジレンマ (4) —子どもの発達保障と保護者意向の尊重をめぐる—」  2) 日本保育学会第 70 回大会 (川崎医療福祉大学)、2017 年 5 月 20 日 亀崎美沙子「保育相談支援における保育士のジレンマ (5) —長期的視点にもとづく子どもの生活保障に着目して—」  3) 第 18 回日本子ども家庭福祉学会全国大会 (関西福祉科学大学)、2017 年 6 月 4 日 亀崎美沙子「保護者支援における保育士の葛藤とその対応 (1) —葛藤を解消させた保育士の支援特性に関する検討—」	
発表予定		

## (2) 雑誌論文(学内紀要含む)

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	査読有無
投稿済	(1) 『十文字学園女子大学紀要』第 47 集 亀崎美沙子 (2017) 「保育相談支援における保育士の葛藤—『気になる子ども』の保護者との関係変容に伴う支援の質的転換に着目して—」	有

投稿済	(2)日本保育学会『保育学研究』第55巻第1号 亀崎美沙子(2017)「保育士の役割の二重性に伴う保育相談支援の葛藤—親・子の相反ニーズにおける子どもの最善の利益をめぐって—」	有
投稿中 投稿予定	亀崎美沙子(投稿中)『十文字学園女子大学紀要』第48集 「保育所における保護者支援の葛藤—園長の役割に着目して—」	有

(3) 図書等の出版

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所
出版済	
出版予定	

(4) シンポジウム・講演会等の開催

状況	主催者名・協賛社名等, 講演(発表タイトル), 実施年月日, 実施場所
開催済	
開催予定	

(5) 本研究に関連して本学経費以外に支援を得た補助金など

年度	機関・財団名, 事業名, 課題名